

日本・モザンビーク共同プレス・ステートメント

2012年2月21日

東京

1. 2012年2月21日、東京において、野田佳彦日本国総理大臣及びアイレス・ボンファシオ・バプティスタ・アリ・モザンビーク共和国首相は首脳会談を行い、二国間関係及びその他の相互の関心事項につき意見交換を行った。両首脳は、日本とモザンビーク共和国の二国間関係が、ハイレベルによる関与を背景としてかつてないほど強化されているとの認識を共有し、両国間のパートナーシップの一層の強化に向けた決意を確認した。
2. アリ首相は、アフリカに対する日本の長期に亘る関与に対し謝意を表明するとともに、アフリカ開発を促進するため2013年6月横浜で開催されるTICAD Vの準備に向けて日本と緊密に作業する意思を確認した。アリ首相は、TICAD Vには共和国大統領がモザンビークを代表することを確認した。アリ首相は、日本が東日本大震災を乗り越える努力をしつつ、TICAD IVにおいて表明した公約を実現する決意に対しても深い謝意を表した。
3. 野田総理大臣は、ナカラ回廊開発における熱帯サバンナ農業開発プロジェクト（PROSAVANA）の実施、及び、インフラ開発を含むモザンビークの開発努力に対する支援を継続する決意を表明した。
4. 双方は、民間部門がモザンビークの経済発展において不可欠な役割を果たすことを強調し、モザンビークにおける日本の民間部門の関心が、天然資源開発を含む広範な分野において増大していることを歓迎した。この文脈において、双方は日本からモザンビークに対する民間部門の投資を促進する必要性を認識するとともに、二国間投資協定に係る交渉を開始することを決定した。
5. さらに、双方は、日本国経済産業省とモザンビーク共和国鉱物資源省間における、鉱物資源、石炭、石油及び天然ガス分野における互恵的かつ戦略的なエネルギー協力関係を促進するため、その具体的な活動や方向性の全体的な枠組みを設立することを目的とする協力覚書の署名を歓迎した。
6. アリ首相は、日本がモザンビークを含むSADC地域において増大するインフラ開発の需要を満たすべく、民間部門のリソースを動員することを目的とする日・SADCインフラ投資セミナーを2012年3月14日に開催することを歓迎した。
7. 野田総理大臣は、モザンビーク及びSADC諸国との間で、地上デジタルテレビ放送規格の日本方式（ISDB-T）に係る意見交換を継続する意図を確認した。（了）